

平成 29 年 12 月 31 日

統計トピックスNo. 107

<sup>いぬ</sup>  
「<sup>いぬ</sup>成年生まれ」と「新成人」の人口

— 平成30年 新年にちなんで —

(「人口推計」から)

<sup>いぬ</sup>  
成年生まれは 976 万人

新成人は 123 万人

総務省統計局では、新年を迎えるに当たり、平成30年1月1日現在における  
<sup>いぬ</sup>  
「<sup>いぬ</sup>成年生まれ」の人口と「新成人」の人口を推計しました。

要 約

I <sup>いぬ</sup> 成年生まれの人口は976万人

- 男性は475万人，女性は502万人
- 昭和45年生まれが最も多い
- 十二支の中で最も少ない

II 新成人人口は123万人

- 新成人人口（平成9年生まれ）は123万人で前年と同数  
男性は63万人，女性は60万人
- 新成人人口の総人口に占める割合は8年連続で1%を下回る

# I <sup>いぬ</sup> 成年生まれの人口は976万人

**男性は 475 万人, 女性は 502 万人**

平成30年1月1日現在における<sup>いぬ</sup>成年生まれの人口は976万人で、総人口1億2660万人に占める割合は7.7%となっています。

男女別にみると、男性は475万人、女性は502万人で、女性が男性より27万人多くなっています。 (表1, 表2)

**昭和 45 年生まれが最も多い**

<sup>いぬ</sup>成年生まれの人口を出生年別にみると、昭和45年生まれ(平成30年に48歳になる人)が189万人と最も多く、次いで昭和33年生まれ(同60歳になる人)が154万人、昭和57年生まれ(同36歳になる人)が150万人、昭和21年生まれ(同72歳になる人)が140万人、平成6年生まれ(同24歳になる人)が126万人、平成18年生まれ(同12歳になる人)が108万人などとなっています。 (表2, 図2)

**十二支の中で最も少ない**

総人口を十二支別にみると、<sup>うし</sup>丑年生まれが1097万人で最も多く、<sup>ね</sup>子年(1081万人)、<sup>ひつじ</sup>未年(1076万人)などと続いており、<sup>いぬ</sup>成年生まれは12番目で、最も少なくなっています。 (表1, 図1)

**表1 十二支別人口**

十二支	人口 (万人)	総人口に 占める割合 (%)	人口 順位
総数	12660	100.0	—
子(ね)	1081	8.5	2
丑(うし)	1097	8.7	1
寅(とら)	1063	8.4	8
卯(う)	1046	8.3	9
辰(たつ)	1065	8.4	6
巳(み)	1071	8.5	4
午(うま)	1016	8.0	11
未(ひつじ)	1076	8.5	3
申(さる)	1071	8.5	4
酉(とり)	1031	8.1	10
戌(いぬ)	976	7.7	12
亥(い)	1065	8.4	6

**図1 十二支別人口**

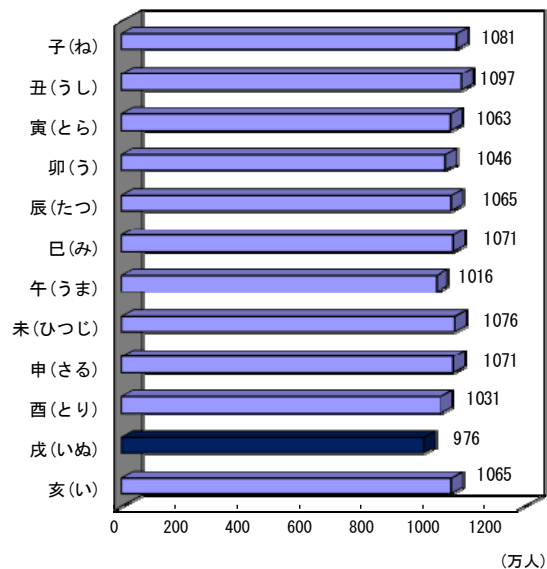


図2 男女、出生年別<sup>いぬ</sup>成年生まれの人口

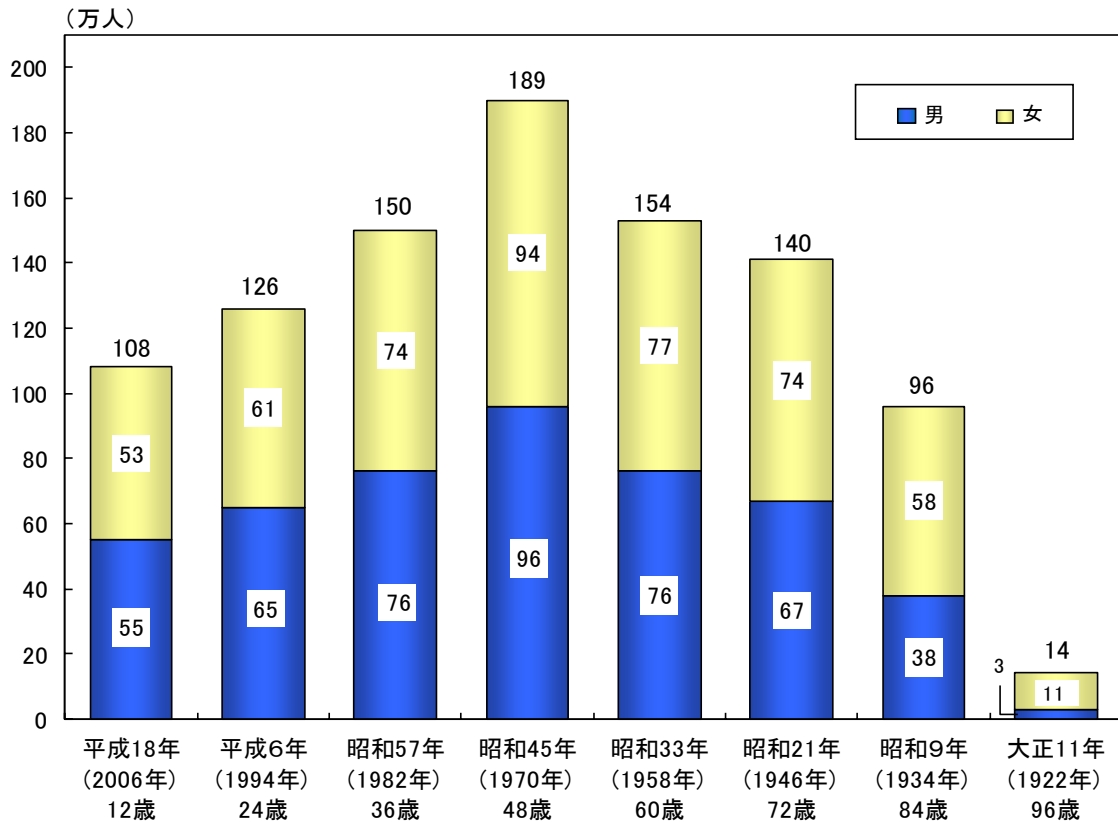


表2 男女、出生年別<sup>いぬ</sup>成年生まれの人口

生まれた年・年齢		男女計 (万人)	総数に占める割合 (%)	男 (万人)	総数に占める割合 (%)	女 (万人)	総数に占める割合 (%)
総数	—	976	100.0	475	100.0	502	100.0
平成18年 (2006年)	12歳	108	11.0	55	11.6	53	10.5
平成6年 (1994年)	24歳	126	12.9	65	13.7	61	12.2
昭和57年 (1982年)	36歳	150	15.3	76	16.0	74	14.7
昭和45年 (1970年)	48歳	189	19.4	96	20.2	94	18.7
昭和33年 (1958年)	60歳	154	15.7	76	16.1	77	15.4
昭和21年 (1946年)	72歳	140	14.4	67	14.0	74	14.7
昭和9年 (1934年)	84歳	96	9.8	38	8.0	58	11.5
大正11年 (1922年)	96歳	14	1.4	3	0.6	11	2.3

- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
- \* 図及び表中の年齢は、平成30年に誕生日を迎えた時の年齢
- \* 十二支別人口は、1月1日現在の推計のため、平成30年生まれ<sup>いぬ</sup>の成年の人は含まれない。

## II 新成人人口は123万人

新成人人口(平成9年生まれ)は123万人で前年と同数  
男性は63万人, 女性は60万人

この1年間(平成29年1月~12月)に,新たに成人に達した人口(平成30年1月1日現在20歳の人口)は123万人で,前年と同数となっています。

男女別にみると,男性は63万人,女性は60万人で,男性が女性より3万人多く,女性100人に対する男性の数(人口性比)は105.5となっています。(表3,図3)

新成人人口の総人口に占める割合は8年連続で1%を下回る

新成人人口について,この推計を開始した昭和43年からの推移をみると,第1次ベビーブーム(昭和22年~24年)世代の昭和24年生まれの人が成人に達した45年が246万人で最も多くなった後,減少に転じ,53年には152万人となりました。その後,昭和50年代後半から再び増加傾向を続け,第2次ベビーブーム(昭和46年~49年)世代の人が成人に達した時に200万人台(最多は平成6年207万人)となった後,平成7年に再び減少に転じて以降は減少傾向を続けています。

表3 新成人人口の推移

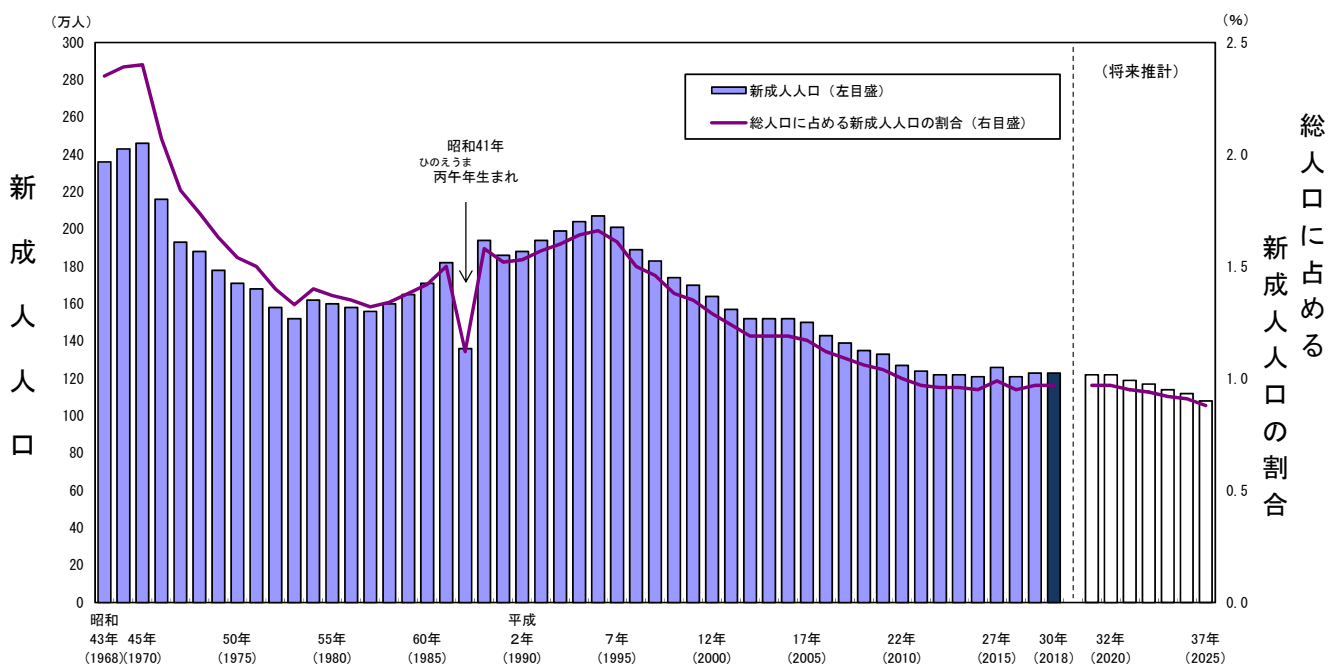
年次(西暦)	新成人人口 (万人)			総人口に 占める 割合(%)	人口性比	年次(西暦)	新成人人口 (万人)			総人口に 占める 割合(%)	人口性比
	男女計	男	女				男女計	男	女		
昭和43年(1968)	236	119	117	2.35	101.6	平成9年(1997)	183	94	89	1.46	104.7
44(1969)	243	123	121	2.39	101.9	10(1998)	174	89	85	1.38	105.0
45(1970)	246	124	123	2.40	101.0	11(1999)	170	87	83	1.35	105.2
46(1971)	216	110	106	2.07	103.9	12(2000)	164	84	80	1.29	105.4
47(1972)	193	98	96	1.84	102.0	13(2001)	157	81	77	1.24	105.3
48(1973)	188	94	94	1.74	100.8	14(2002)	152	78	74	1.19	104.7
49(1974)	178	89	89	1.63	100.6	15(2003)	152	77	74	1.19	104.7
50(1975)	171	87	84	1.54	103.6	16(2004)	152	78	74	1.19	104.7
51(1976)	168	86	83	1.50	103.7	17(2005)	150	77	73	1.17	104.9
52(1977)	158	81	77	1.40	104.5	18(2006)	143	73	70	1.12	105.0
53(1978)	152	77	75	1.33	102.8	19(2007)	139	72	67	1.09	106.4
54(1979)	162	82	80	1.40	103.3	20(2008)	135	69	66	1.06	105.2
55(1980)	160	81	78	1.37	103.9	21(2009)	133	68	65	1.04	104.9
56(1981)	158	81	78	1.35	104.3	22(2010)	127	65	62	1.00	104.7
57(1982)	156	80	76	1.32	104.5	23(2011)	124	63	61	0.97	104.2
58(1983)	160	81	78	1.34	104.2	24(2012)	122	62	60	0.96	104.9
59(1984)	165	84	81	1.38	104.3	25(2013)	122	63	59	0.96	105.4
60(1985)	171	87	83	1.42	104.8	26(2014)	121	62	59	0.95	105.1
61(1986)	182	93	89	1.50	104.2	27(2015)	126	65	61	0.99	105.5
62(1987)	136	70	66	1.12	105.7	28(2016)	121	62	59	0.95	105.1
63(1988)	194	99	95	1.58	103.9	29(2017)	123	63	60	0.97	105.8
64・平成元年(1989)	186	96	91	1.52	105.3	30(2018)	123	63	60	0.97	105.5
2(1990)	188	97	92	1.53	105.5	31(2019)	122	62	59	0.97	105.3
3(1991)	194	99	94	1.57	105.4	32(2020)	122	62	59	0.97	105.6
4(1992)	199	101	97	1.60	104.2	33(2021)	119	61	58	0.95	104.8
5(1993)	204	104	99	1.64	105.0	34(2022)	117	60	57	0.94	104.7
6(1994)	207	106	101	1.66	105.0	35(2023)	114	58	56	0.92	104.6
7(1995)	201	103	98	1.61	105.6	36(2024)	112	57	55	0.91	104.1
8(1996)	189	97	92	1.50	105.3	37(2025)	108	55	53	0.88	104.3

平成30年の新成人人口は123万人、総人口に占める割合は0.97%で、前年と同数、同率となりました。総人口に占める割合は8年連続で1%を下回っています。

なお、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後の新成人人口は減少傾向で推移し、平成37年（2025年）には110万人を下回ると見込まれています。

（表3，図3）

図3 新成人人口及び総人口に占める割合の推移



- \* 昭和43年～平成30年までは「人口推計」（各年1月1日現在）
- \* 平成31年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計（国立社会保障・人口問題研究所）から作成（各年10月1日現在）
- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。



人口推計は、平成 29 年 4 月公表分から基幹統計になりました！！

※ 基幹統計とは、国勢統計、国民経済計算、その他国の行政機関が作成する統計のうち総務大臣が指定する特に重要な統計をいいます。



※ 人口推計は、国勢調査による人口を基に、その後の人口動向を他の人口関連資料から得て算出しています。

- ◆ 「人口推計」の詳しい結果を御覧になる場合は、次の URL を参照ください。

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>

人口推計

検索

- ◆ このトピックスは、次の URL から御覧になれます。

<http://www.stat.go.jp/data/topics/index.htm>

- ◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。

(例) 「人口推計」(総務省統計局)

**【問合せ先】**  
総務省統計局 統計調査部 国勢統計課 人口推計係  
〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号  
TEL : 03(5273)1009  
FAX : 03(5273)1552  
Eメール : c-suikei@soumu.go.jp

